

メディアコミュニケーション演習/

Media Studies in English と日本語

担当教員: 志柿浩一郎 Instructor: Koichiro Shigaki

Image Creator: Kittisak_Taramas | Credit: Getty Images/iStockphoto

今日の予定

- 授業関係のアナウンス、課題詳細説明、リフレクションへのコメントなど
- 英語の歌を唄う練習 15分程度
- グループ活動1: ディスカッション訓練1として、自己紹介（ただしmy name is とかで始まるものではない）、他個🐙紹介（来週もする）を英語でする
- **グループ活動2:**発表の内容を詰めていく作業

一応ゼミは
1年間なので

- 1-7. ゼミのための外国語学習方法を理解し学習する。片言でもいいからアウトプット訓練をかねた英会話練もする。
- 8. なぜメディアを学ぶか（この辺で発表する順番を決めてしまいたい…）
- 9. **メディアを学ぶ理由について、英語のYoutube動画を事前に共有するので、それに基づいてグループワーク（できれば英語）**
- 10. グループ発表開始…..（時間が余れば英会話練習）
- 11. 英会話練習・前回のテーマに関してディスカッションタイム
- 12. グループ発表開始…（時間が余れば英会話練習）
- 13. 英会話練習・前回のテーマに関してディスカッションタイム
- 14. グループ発表開始…（時間が余れば英会話練習）

夏休み、秋学期

- 夏休み: 日英双方の言語で、メディア論に関する概論書抜粋、動画資料を配布するので、それを見たり読むことをする（それだけ、後期は資料を理解している前提ですすめる）。英語の勉強をする（楽しいやり方を見つける）
- 秋学期: 最初の週・3日目まで、先生がメディア学に関連した概論を、口頭は英語、スライドは日本語という形で説明。それについて英語でグループディスカッションに「挑戦する」
- 4週目以降からグループごとに発表していく（準備時間を含め実質中間以降）

授業外課題

授業外学修

- 英語の自学自習方法を色々試す（これは先生が授業Webページで紹介していくので、随時確認）
- 来週授業開始10分から15分ほど、各自教室で歌を唄う（ヘッドフォン、イヤフォン持参）、あるいは練習する時間を設けるので、一応選んだ曲を何度も聞き返す、家で練習しても可
- 個人の研究テーマが具体的に決まったら、そのテーマに関連した概要、概論書、教科書になるものを探す。
（締め切りはないものの、中間あたりまでに読んでおいてもらいたい）

授業外学修

- グループで作成しているだるうフレーズ集を継続して作る。
- フレーズは声に出して練習する。発音が気になるのであれば、授業時間などを利用し、先生に確認する。
PCやスマホ自動読み上げ機能を英語にして読ませる

英語の歌を唄う

This is must! It is required!
You hate to sing? I don't care. At least,
move your mouth and say something

グループとというか

ペア活動1

自己紹介・他己紹介

大学を知る、自分を知る、仲間を知る

- Twitterやインスタでつながるみたいだけど...ディスカッションあるいはグループワークが最低限できるように、そういったつながりとは違う方法を学ぶ必要がある
- 伝えるスキル、話すスキル、相手を理解するスキル、聞く能力（話に耳を傾ける）

ネットも含めメディア関係の業界→自分を対象化し語るスキル、他者を知ることは必要条件（大半はできない。あるいはできると思って自己陶醉してて自称クリエイターとか言う..)

自己紹介・他己紹介

<自己紹介:1人5分×2>

- 話し手、聞き手を決める
- 話し手は決めたテーマで、自分のことを積極的に話す。
- 聞き手は、質問の仕方工夫し、なるべく相手が話しを続けるよう工夫し、次に行う他己紹介のためにメモする、あるいは頭で記憶しておく
- テーマ例: 高校生活、部活・サークル、大学生活全般: おもしろい授業、「クソ」な授業、関心のある専門分野、部活・サークル、性格:自分から見た私、他人から見た私、バイトでの私、将来の夢、今ハマってること、特技など(身近なものであること)

自己紹介・他己紹介

<🐙紹介 10分程度>

- グループ内で、他のペアに、自分のペアについて話したことを説明する。ただし、単に聞いた内容をそのまま紹介するのではなく、聞いて感じた印象、感想を一言いれること（例：「これこれができるってのは意外に見えてすごいとおもいます」など）
- 自己紹介と他己紹介が終われば振り返る。その内容をリフレクションにかく。気づいたこと、考えたこと、感じたことなど

即興できない？

じゃあ、テーマを決めて
日本語で話す内容をつくる
それを英語にしていく

秋学期は、これが自己🐙紹介から、メディアに関係したテーマに置き換わると思って

- テーマ例: 高校生活、部活・サークル、大学生活全般: おもしろい授業、「クソ」な授業、関心のある専門分野、部活・サークル、性格:自分から見た私、他人から見た私、バイトでの私、将来の夢、今ハマってること、特技など（身近なものであること）
- 応用編（自己紹介というより、自分の考え）：
ジャーナリストや情報発信に関わる人材になるには、大学でどういったことを身につけるといいと思う??

グループ活動2

テーマが具体化したら

決めたテーマで...

- 問題点や主要な論述する点を設定する（おおよその主旨を決める）
- 仮の結論（仮説）が出せるようであれば出す（人文系は出しづらい）
- 概要や概論がわかるものを探す（そこから全体像を理解する）
- 引っかかる点、自分の問題意識が何かを考える。それに近い問題を論じている論述を探す
- 具体的な発表内容をつめていき、役割をきめていく



例1

- メディアの影響①②

→ 予想として「メディアは影響が強いです」「メディアは影響力が強いので、批判的に見ていかなければなりません」になりがち。それではメディア学科にしながら、何をしてきたと言われる

→ メディアの影響で何が問題になるのか？

→ ネットというのを取り上げると「ネットで生活様式がどう変わったのか」は良く選ばれるテーマ。でも、何故それが問題となるのか？先生だったら、シンプルに「別に変わってもいいじゃん、何が問題なの」って言いたいがね。そこを考える

→ ネットだけをとってもまだ大きなテーマ。具体化していく。例えばSNS。SNSでも色々ある。Line? Instagram?

→先生が思いつくもの: Instagramと学生の表現活動、Instagramと学生の自尊心の高低、SNSへの学生の依存度と学業成績の関係

例2

- ・メディアを何故学ぶか（1グループのみ）
 - 「虚偽情報を鵜呑みにしないようにするためです」みたいなことは言わない。それは表層的な問題。学校の先生や生徒が言いガチ
 - メディア論、マスコミュニケーション論、メディア学、社会情報学といった学問になっている理由を考える
 - メディアというのが何故研究されているのか？が重要
 - なぜ制作や実践的なことと並行してやらないといけないか（何故日本の大学では学問的なものになってしまっているか）
 - 可能なら、難しい言葉を使用して、大事であることを説明する。例: メディアは成長分野で巨大なビジネスチャンスがあるから・メディアから発せられるメッセージには特定のイデオロギーを含み、無意識のうちに送信し、受信している、などなど。